

2011.4.13
空調タイクス

研究開発力強化の成果発揮

ダイヤアクアソリューションズ

非ヒドラー「M-2000」浸透へ



藤本 和富 常務



尾崎 文一 理事

水処理剤など工業薬品メーカーのダイヤアクアソリューションズ（社長＝浦橋巨氏、本社・東京都千代田区大手町2-1-6）では近年、技術開発力の強化を進め、積極的な新製品の投入を図ることで市場での存在感を高めている。

空調用水処理剤について、Ame's試験の変異性が陰性のノンヒドラーシンタイプ製品の開発に世界で初めて成功、総合

水処理剤ブランド・コントライムの「M-1000」シリーズの展開で知られる同社。さらに一昨年にはコントライムの最新版として「M-2000」を発売し、現在は同製品を主軸とした提案活動を展開している。

M-2000は、化学物質の発がん性を測るAme's試験で「安全」と評価されたことを最大訴求ポイントとするM-1000の特長を継承しつ

つ、環境ISO対応、変異性対策を強化したものの。皮膚刺激性が極めて弱く、安全で環境に優しい高性能水処理剤として発売以来着実にファンを増やしてきた。一液で腐食防止、スケール防止、スライム抑制、レジオネラ菌抑制の4つの機能を有している点も大きな魅力だ。

ヒドラーシン水処理剤は、使い勝手やコストの安さから、ボイラー関係をはじめ国内で広く普及してきた。藤本和富常務取締役は「当社ではヒドラーシン水処理剤を第一世代、ノンヒドラーシンとしたM-1000シリーズを第二世代、そして微酸

性かつ変異性が陰性のM-2000を第三世代と位置付けている。新世代のM-2000は、特に腐食防止機能が我々の期待以上、さらにスライム抑制機能も高性能なヒドラーシン水処理剤並みの効果を発揮しており、当社の総合水処理剤製品群の軸を担う「エース」として育てていきたい」と期待を込める。

このほか今春より、低濃縮運転の開放冷却水系用途に世界で初めて亜硝酸塩を使用したコントライム「T-3500」も新たに開発、市場投入している。含有する亜硝酸塩が鉄表面に均一で強固な不動態皮膜を形成し、鋼材の腐食を防止する仕組み。金属表面を清浄に保つことにより、二次的腐食の誘発を防止するほか、亜硝酸酸化細菌を抑制し亜硝酸塩の分解を防止する。

このように活発な製品開発が行われている同社だが「3年ほど前から研究開発力の向上を目的に人材の投入・育成を積極的に実施してきたおり、その成果が表れつつある。さらに親会社（三菱化学）譲りの優れた技術力・ノウハウを強化し、代理店にも浸透させるべくきめ細かな技術移転にも注力してきた」（理事の尾崎文一・大阪営業所長）とし、今後も課題解決型のビジネススタイルに磨きをかけていく方針だ。

◇ 同社の水処理剤の製造は、従来まで三菱化学が担当していたが、昨年秋より、製造もダイヤアクアソリューションズの管轄となった。藤本常務は「製造・販売・サービスの一貫体制によって意思疎通の迅速化が期待できる。また、コスト削減なども今後のテーマとして取り組んでいく」と話している。